カンボジア―長野県小諸市立美南ガ丘小学校における
ライブ授業

中　山　晴　美
（体育･小諸市立美南ガ丘小学校教諭）

総評　国内と途上国をつなぐ帰国隊員の活躍

上　原　吉　雄
（小諸市立美南ガ丘小学校長）

中山晴美教諭には昨年 4 月、本校に赴任していただきました。学校では 3 月中に新年度の校務分掌や担任を決めるため、校長は 3 月中旬ころまでには本人に会っておかなければなりません。中山教諭は 3 月 19 日に帰国予定でしたので、住宅の件でカンボジアへ電話を入れたり、帰省した翌日に学校へ来てもらったりしました。新年度がスタートしてからも、帰国直後の転任で大丈夫だろうかと心配しましたが、5 年生の担任としてよくがんばってくれました。こうした問題を解消するだけでなく派遣先と日本の学校との交流をスムーズに進めるためにも派遣終了後は元の学校へ戻るほうがよいのではないかと、私個人としては考えます。

午前中の帰国隊員の皆さんのお話をお聞きしながら、中山教諭の経験を地域へ還元するという点で、校長としてもっと配慮すべきだったと反省しております。

昨年 5 月に小諸とその周辺の小中学校 16 校の職員 350 名ほどが集まる会で、中山教諭に『カンボジアの子どもたち』というテーマで発表をしてもらいました。海外協力隊の存在や活動が、特に若い教職員には参考になったのではなかったかと思います。また 12 月の市内の校長会の折、本校で実施されたライブ授業の話をしたところ、高校の校長先生から、「今高校生の中には海外協力隊への関心が高いので、中山先生にぜひ話をしてほしい」という依頼がありました。貴重な体験が高校生の進路指導に役立ち、ひいては地域に還元できる大変よい機会と快諾いたしました。

数年前から小諸市では市内在住の外国人との交流に取り組んでいる団体があり、市教育委員会も後援し、年 1 回『こもろ地球人祭』という催しを、小中学校の体育館などを会場にしておこなっています。地域在住の外国人の皆さんのコミュニケーションを図ったり、諸外国の生活や文化に触れたり日本の文化を知ってもらおうというものです。また市立図書館では『おはなし世界めぐり』という企画で、毎月 1 つの国を取り上げ、読み聞かせを中心に世界のいろいろな国を知る活動をしています。今後こうしたところへ積極的に関わっていくこともできるかと思います。

授業への還元ということから申しますと、やはり総合的な学習を中心に取り組むことがよいかと思います。本校の総合的な学習は、3 年生から地域をベースに置き人権・環境・福祉・国際理解などを学年テーマとして設定しています。国際理解教育は 6 年生でやることになっていますので、中山教諭の取り組みも、これから学年に広げていくことになります。今回のライブ授業のような形での交流も、継続して進められるよう支援していきたいと思っております。